

競争といふと私交上に迄悪い影を及ぼすこともないではない、また其味方を利するため陋劣な運動を爲す人もあつて多少の弊害は免れまいか、二會競争によつて生ずる利益から見たら何でもない事で、此論は當分實行出來ぬものであらう（二月九日）

雪ふる夜、表町永地郎に太平洋畫會理事會が開かれた。相談が濟むで後に、吉田君からトランプの新しいとり方を教はつた。

初めは何か一向分らん、併し分らぬながらも三番五番とやつてゐると、筋が知れて来る、掛引も覚えて来る、偶には勝利を得ることもある、見てゐたり話をきいたばかりでは何の益もない、實地に手を下してこそ初めて其趣味をも解し得るのである

（二月十日）

例によつて新年會の催あり、知友門下の一部來會さる、カルタに遊戯に笑ひ興じて夜十一時散會（二月十四日）

## ポスト、インプレシヨニスト

### 畫派に對するタイムス評

石川 欽一郎

目下佛國に於ける最新畫派なるポスト、インプレシヨニストに就て近著の倫敦タイムスに左の如き評を載せたり。

ポスト、インプレシヨニストと云ふは適當なる文字見當らざるゆへ假りに付けたる名稱なるが、此畫風は既に數年以前より巴里に於て評判となりしものにて、今回斡旋者を得てグラフィトン美術館に於て堂々と其作品を展覧するに至れり。

目録に載せたる主意書は中々の名文なるが、其要に曰く『同派の作品は單に美術と云はんよりも寧ろ之を論理的美術と稱すべく、現代に於ける最も研究を経たる美術なり』云々とあり署名者なき故之は委員全體の意見なりと見て然るべく、委員の顔觸中主なるはロージヤ、フライ氏なり氏の如き有力家が此種の會合に其名を列することは、世間の附和雷同の批評家をして是等畫派を稱賛するに至らしむる恐れなきに非らざるなり。

斯る批評家に對する豫防として予輩の所信を表白し置くの要あるべし、即ち此種の畫風は元々反動的現象に過ぎず、趣旨とする處は單純にありと云ふも、此單純とは既往の大家が研究の結果なる練磨の妙處を悉く放棄し又た再び最初より遣り返へして、子供が止めそうなる處にて止めて仕舞ふと云ふ意味に外ならず。

主意書中にポール、ゴッゲン筆タヒチ島の風俗に就て述べて曰く『之を畫くには最も單純を旨とし、以て初期時代の繪畫に見る如き動作と性狀の特徴とを其人物に表はさんと苦心したり』云々とあれども、予輩は如何にするも氏の作には斯る初期時代の特徴を見出す能はず、銅色のタヒチ島の女が寢臺に俯向きに横はり、腕の邊や手の指にも難あるに於て、初期時代の妙



競争といふと私交上に迄悪い影を及ぼすこともないではない、また其味方を利するため陋劣な運動を爲す人もあつて多少の弊害は免れまいか、二會競争によつて生ずる利益から見たら何でもない事で、此論は當分實行出来ぬものであらう(二月九日)

雪ふる夜、表町永地邸に太平洋畫會理事會が開かれた。相談が濟むで後に、吉田君からトランプの新しいとり方を教はつた。初めは何か一向分らん、併し分らぬながらも三番五番とやつてゐると、筋が知れて来る、掛引も覚えて来る、偶には勝利を得ることもある、見てゐたり話をきいたばかりでは何の益もない、實地に手を下してこそ初めて其趣味をも解し得るのである(二月十日)

例によつて新年會の催あり、知友門下の一部來會さる、カルタに遊戯に笑ひ興じて夜十一時散會(二月十四日)

## ポスト、インプレシヨニスト

### 畫派に對するタイムス評

石川 欽一郎

目下佛國に於ける最新畫派なるポスト、インプレシヨニストに就て近著の倫敦タイムスに左の如き評を載せたり。

ポスト、インプレシヨニストと云ふは適當なる文字見當らざるゆへ假りに付けたる名稱なるが、此畫風は既に數年以前より巴里に於て評判となりしものにて、今回韓旋者を得てグラフィトン美術館に於て堂々と其作品を展覽するに至れり。

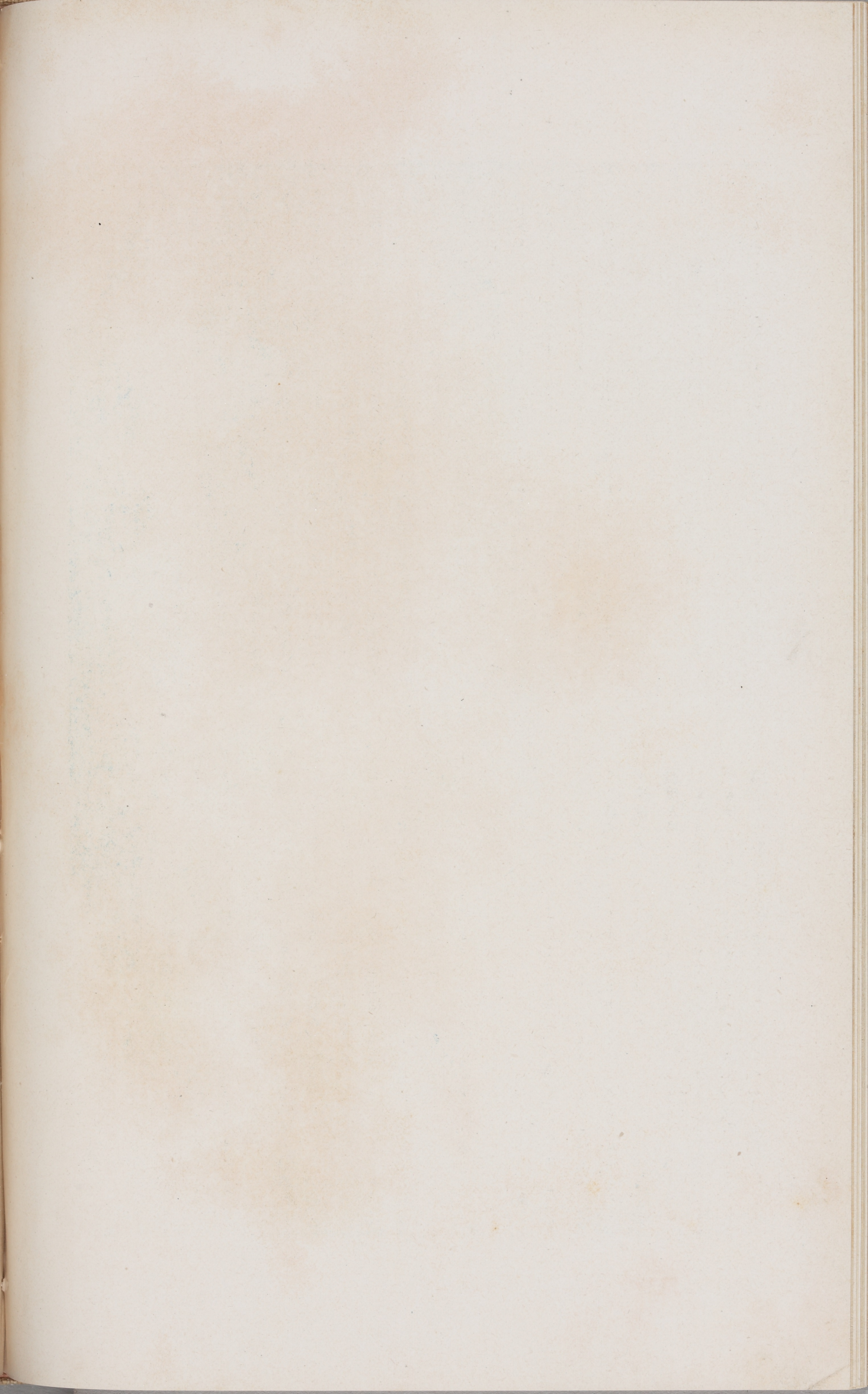
目錄に載せたる主意書は中々の名文なるが、其要に曰く「同派の作品は單に美術と云はんよりも寧ろ之を論理的美術と稱すべく、現代に於ける最も研究を経たる美術なり」云々とあり署名者なき故之は委員全體の意見なりと見て然るべく、委員の顔觸中主なるはロージヤ、フライ氏なり氏の如き有力家が此種の會合に其名を列することは、世間の附和雷同の批評家をして是等畫派を稱贊するに至らしむる恐れなきに非らざるなり。

斯る批評家に對する豫防として予輩の所信を表白し置くの要あるべし、即ち此種の畫風は元々反動的現象に過ぎず、趣旨とする處は單純にありと云ふも、此單純とは既往の大家が研究の結果なる練磨の妙處を悉く放棄し又た再び最初より遣り返へして、子供が止めそつたる處にて止めて仕舞ふと云ふ意味に外ならず。

主意書中にポトル、ゴグアン筆タヒチ島の風俗に就て述べて曰く「之を畫くには最も單純を旨とし、以て初期時代の繪畫に見る如き動作と性状の特徴とを其人物に表はさんと苦心したり」云々とあれども、予輩は如何にするも氏の作には斯る初期時代の特徴を見出す能はず、銅色のタヒチ島の女が寢臺に俯向きに横はり、腕の邊や手の指にも難あるに於て、初期時代の妙



Точка ок. 1900-08.



味何處にありや、眞の初期時代の美術は無邪氣なるによりて面白し、之は考へ過ぎたり、過去に於けるゴエテの所謂『研究の効果』を悉く放擲せんとするものなること、恰も政界に於ける虚無黨の如く、此畫派は文明の貢獻せる長所を捨て短處を探て之に代へんとは爲すものなり。

獨り此作家のみならず、此畫派の會員には他にも亦變はり者尠なからず、尤も之は畫派と云ふ程のものなりや否や、それは兎も角モリス、デニー氏の如きは、ピユビー、ド、シヤパンヌを眞似て態々拙く畫けるオルフェーを出し、又たオデッセーより題を取りたる二圖の如きは、奇態なる淡紅色の岩石に人物を配したるものなるが、此人物には幾分面白なきにもあらず、尤も此會場にて幾分面白なきにも非らずなど云はゞ奇異に感ずる人もあるべし、此畫派の最終の目的は只面白味にあり、面白味あればこそ人も此畫を見る譯なるが、主意書に云へる「現代の理想」とは先づ此邊の意味ならんも、併し之は畫家の爲すが儘にて少しも局外者の嘴を容るゝを許さずと云ふ其理想のこととなるべし、嘗てテオフィール、ゴータアの時代に於ける諺にも『美術家の目的とする處は人を驚かすにあり決して喜ばすべきにあらず』と云へるに非らずや。

## 寫生地案内

青梅

### 三 脚 子

二月は一年中の極寒い時である、このやうな時に風でも吹かれ

たらトテモ戶外寫生は出来ない。東京近處は山が遠いので、此風はいつも吹通してである。暖かな伊豆駿河は當分毎日西風の唸り聲をきかない譯にはゆかぬ。こんな時は山懷ろへ逃込むのに限る。

青梅附近の景色の一番よい時は秋で、其次は春、水があるので夏もよい、冬は他の場處と同じく格別取り柄はないが、たゞ北に山を負ふてゐるので、冬も強い風は吹かない。半里離れて新町小作邊へゆくと、砂煙りで火事場のやうな時でも、青梅から日向和田邊は木の葉も動かぬことがある。

新宿から二時間半、青梅の停車場で汽車を下りたら、まづ北斗山へ登つて見たまへ、山上のことだから風は吹くかもしれないが、このあたり寫生地、形勝が一目で分る。

青梅鐵道から出た遊覽案内に北斗山の記がある、長いけれど全文をのせる。

### 北 斗 山

江

鴨

今日はまことによき元旦に御座候、天氣は快よく晴れわたり、雲なく風なく暖かにしてはやくも春の心地いたされ候。まづ金比羅山へと志し申候、停車場の先より鐵道の踏切を越へ、小學校の前より登るべく幅廣く峻しからぬ一筋の道有之候、幾度か曲りて三四丁程にて本社のある平地に出て申候、こゝには松櫻などの古木十數株ありて風致よろしく、また眺望も極めて壯快に御座候、東の方は所謂武藏野にして一望際限なく、挾山の丘陵僅かにホライヅンに變化を與ふるのみ、